

【概 要】

平成29年度 東京都自立支援協議会第2回本会議 全体会②記録

岩本会長	各グループの進行役から5分程度で報告をお願いします。
海老原副 会長	<p>交流会グループで話し合ったことを発表する。</p> <p>実行委員体制についての感想ですが、今回初めての取組だったので、自分は交流会委員だったということが突然決められていて、戸惑って、どうすればよいのかよく分からなかったところからスタートした。事前にこのようにやっていくという資料とかたくさん配られてとても勉強になったし、短期集中で仕事ができ、参加できたということが良かった。</p> <p>少人数でのチーム編成だったので、意見交換をしやすく、この人がこういう意見を持っているということが分かりやすく、やり方としてはすごく良かった。</p> <p>交流会自体で、良かったことは、グループワークはいろんな自治体の人たちと直接詳細に意見交換とか情報交換ができるので、すごく勉強になった。各自治体からチームに参加してもらって最後にキャッチフレーズを作るというプログラム、やり方がすごく良かった、そこに向かってやっていくという意識ができるような企画だったので良かった。</p> <p>できなかったことも、これから改善していけるという意味でたくさん挙げられた。せっかくチーム参加にして、最後にキャッチフレーズを作って、自分の自治体に持ち帰ろうというようなテーマで企画をしたけれど、自治体自体が来なかったり、自治体から来た人が一人だけというところがたくさんあって、自分の自治体に持ち帰る、自分の自治体の協議会でどう活かすかというところまでの道筋が付けられなかったということが挙げられ、もうちょっと改善できる場所があったのではないかな。</p> <p>今回大きなテーマとしては、交流会で得た情報をどうしたら一つの課題としてまとめて自分の協議会に持っていけるか、その後、自分たちの交流会の中で活用できるかということをやテーマにして企画したが、うまく参加者に伝わり切らなかったというところが残念。</p> <p>知的の人にも、短い時間で事例報告ばかりたくさん情報を出していただくので、ついていけない部分があった、もう少し分かりやすい進め方をしてもらえるとありがたいという意見があった。</p> <p>30年度に取り組みたいことで、せめて自分はこの委員をやってみたいという意思表示をする機会がほしい。直接顔を合わせて1回打ち合わせができると良い。</p> <p>なるべく自治体参加を目指す、特に23区からの参加が少なかったという意見があったので、そこへの呼びかけを工夫していくこと。参加してもらえるためには、交流会に出ると自分たちが何かを自分の自治体に持って帰れるぞというモチベーションが上がるような企画が必要。</p> <p>30年度、都の協議会としての取組について、他の自治体で困っていること、好事例でうまくいったことを、協議会の中でうまく集約して共有して、それをいろんな</p>

	<p>地域からアクセスして情報が受け取れるような仕組みを作っていくことができればいいという意見が出た。</p>
金澤副会長	<p>セミナーグループです。</p> <p>実行委員の在り方ですが、とてもいいやり方であろうというのが共通した意見。各団体、事業所の情報のセキュリティの在り方などの兼ね合いもあり、せっかくメーリングリストをやっても、すぐにやり取りができづらいような状況があるということが分かった。情報の共有の仕方についてもひと工夫、ふた工夫できると良い。</p> <p>セミナーについて、今回12月8日で、障害者週間の前後だったりするので、いろんなイベントがあり、しかも金曜日で、重なったということもあったと思う。にもかかわらず四百数十名の方が集まったのは、それなりの興味、関心の高いテーマだったのだなというのを改めて思った。今回は介護事業所関係にも案内を出したということで、地域包括、高齢の介護事業所の参加が数十名、障害当事者、ご家族の関係の方も数十名、多様な人たちが参加していただいてこの問題を考えられたのは、非常に良かったのではないかと感想も聞かれた。</p> <p>今後どういったテーマで取り組んだ方がいいのかなというところで、8050問題にもつながるが、地域移行と地域生活のリアルみたいなところを正面に据えて企画を考えたかどうかというところで今回のメンバーでまとまった。</p> <p>実行委員のメンバーが主体的に関われるようなということで、顔合わせの機会や、始まりのキックオフを前倒しで取り組む、実行委員の人たちが情報のやり取りをしながら企画、運営を事務局、三役と連携しながら詰めていければ、現場発信のより良い企画ができるのではないかなという意見も出た。</p>
川上委員	<p>動向集グループです。</p> <p>調査票ができ上がった段階で、道半ばというところなので達成感は得られない状態で意見交換をした状況。</p> <p>元々動向集は、自立支援協議会があまり立ち上がってない中で比較してやっていくというようなことで始めたようなので、行政側から見ると非常にいろんな地域の状況が分かっているが、各自立支援協議会がどういうふうに使っていくかというのも考えていかないといけない。そういう意味で、動向集の取扱いを、少し意味づけを考えていく必要はあるのではないかと意見も出た。</p> <p>ホームページ上にも動向集の結果の一部は載せているが、それを例えば各区市町村の地域自立支援協議会の中で、こんな情報も都のホームページに載っているよという情報提供すら、たぶん各区市町村はしていないだろう。そういう意味では双方向ということなのだけれども、情報提供の仕方も、まだ工夫の余地があるのではないかと意見が出た。</p> <p>来年度に取り組んでいきたいことだが、地域生活支援拠点というのが今年度の計画の中で出てくるが、それが今どうなっているのか、意見交換なり、情報交換していければいいかなという話が出ている。</p>
岩本会長	<p>グループは違っていても、何か共通するものも見えてきたし、今日初めてグルー</p>

	<p>プで顔を合わせた討議をしたところで、1回目の本会議ではそうしたことはできなかった。2年目に向けて今の流れを作って、さらに活発な活動ができればいいと思う。</p> <p>今日いろいろグループで意見を出していただいたが、引き続き発信をしていただきたいと思う。</p> <p>ただ、メーリングリストだけのやり取りの難しさも出てきたので、その辺りも考えていきたいと思う。</p> <p>議事に移り、事務局から資料の説明をお願いする。</p>
<p>大津課長</p>	<p>○参考資料1 都道府県別 平成29年9月までの計画相談支援実績</p> <p>全国全域のサービス受給者に対する計画作成済者の割合が98.5%、計画作成済者に対するセルフプラン作成済者の割合が16.8%。</p> <p>東京都は、計画作成済者の割合が97.9%、セルフプラン作成済者の割合が21.7%で、計画作成済者の割合は全国より低く、セルフプラン作成済者の割合が若干高いといった状況。</p> <p>下のグラフが障害児の相談支援実績で、東京都の計画作成済者の割合が99.0%、それに対するセルフプラン作成済者の割合が36.4%で、障害児相談支援実績も相談支援実績と同じようにセルフプラン作成済者の割合が全国より若干高い状況。</p> <p>○参考資料2 東京都における平成29年9月までの計画相談支援実績(区市町村別)</p> <p>区市町村別割合で、区部で9割に達していない自治体が1自治体あり、島嶼部では5割程度のところもある。セルフプラン作成済者の割合は区市町村によって差がある。</p> <p>障害児相談支援では、100%作成しているところもあるが、セルフプラン作成済者の割合がさらにばらつきが見られ、全国より高い割合となっているのが特徴的。</p> <p>○参考資料3 都内における障害者虐待の状況</p> <p>養護者、障害者福祉施設従事者等、使用者別の対応状況で、28年度の相談・通報・届出件数は、養護者によるものが308件で、前年度比17件、5.8%の増加、障害者福祉施設従事者等によるものが170件で、前年度比51件、23.1%の減少、使用者によるものが51件で、前年度比1件、2.0%の増加。</p> <p>相談・通報・届出者の状況では、養護者による虐待では「本人による届出」が一番多く、次に「施設・事業所の職員」、「当該区市町村行政職員」の順で、障害者福祉施設従事者等によるものでは「当該施設・事業所職員」が最も多く、「家族・親族」「本人による届出」、使用者によるものでは「本人による届出」が一番多く、次いで「家族・親族」。</p> <p>養護者による障害者虐待の件数は増え、福祉施設従事者等によるものは減少、使用者によるものは昨年度とほぼ同じ。詳細については、後程ご覧いただきたい。</p>
<p>岩本会長</p>	<p>相談支援、計画相談のデータも、後でよくご覧いただいて、活動の参考にさせていただければと思う。相談支援専門員の人材育成とか質の向上がいろいろ課題になって、国の方でも相談支援の質の向上に向けた検討会が開催され、東京都でも人材育成のための研修が行われているので、研修の内容、今後の予定について口頭で説明</p>

	<p>をお願いする。</p>
大津課長	<p>東京都心身障害者福祉センターでは、障害者総合支援法の施行に係る相談支援従事者研修、サービス管理責任者、児童発達支援管理責任者研修及び障害支援区分認定調査員等研修を実施している。</p> <p>相談支援従事者研修、サービス管理責任者、児童発達支援管理責任者研修については研修制度の見直しが行なわれるということになっている。都内各地域で活動されている方々に国の指導者養成研修を受講していただき、またそれぞれ検討会を設けて、研修のカリキュラムや進め方などについて検討していただいている。</p> <p>相談支援の質の向上に向けた検討会の結果に基づき、地域の中核的な役割を担う相談支援専門員、主任相談支援専門員というような名称を使っているが、その創設と、相談支援専門員、サービス管理責任者等がキャリアに応じてスキルアップを図れる機会が確保できるということが目的になっている。</p>
岩本会長	<p>都の取組について説明があり、相談支援専門員に関しては、各地で様々な活動やネットワークがあって、私たちが十分に把握できていないところがある。この点、海老原副会長から問題意識として挙げていただいたので、一言お願いする。</p>
海老原副会長	<p>私も相談支援専門員としての活動はしていて、質の高い相談支援というのはこういうことかというのを最初からずっと課題として挙げられている。100%やっても、ただの書類づくりで終わっている人たちがたくさんいて、利用者のためになっているのか、その人の人生を少しでも良くするためになっているのかというところが、現場で活動していていつも思う。</p> <p>東大和市で相談部会といって相談支援専門員が毎月 1 回協議をして、事例検討や研修会を行ったりして、一生懸命やっている方だと思う。それでもお互いの事業所で作った計画を出し合うと、「えっ」というようなものがいっぱい出てくる。その温度差というのか、そういうものを統一していくことってすごく難しく、問題意識として各自で膨らんできているのだろうと思う。</p>
岩本課長	<p>今、おっしゃられたことはいろんなところで課題になっていて、それぞれ取組がされていると思う。</p> <p>先ほど川上委員から葛飾区でも相談支援専門員の研修会を毎月やっていて、インシデント分析のようなセミナーの資料を拝見したが、各地域でいろんなことや自治体を越えて団体としてやっているところもあると思う。その辺りも情報共有したり、いいものはどんどん活用させてもらったり、全体として高め合うような取組ができるといいのかなと思った。</p> <p>委員の皆さんから情報提供があったら、発信していただきたいが、いかがか。</p>
金川委員	<p>東京都は相談支援従事者研修のコース別専門研修というのを実施していないので、数年に 1 回現任者研修で集まったら「お互い無事だったね」ぐらいの、それが現状。</p> <p>東京は今後、相談支援専門員の集りを作ろうかという話をしていたり、有志の勉強会みたいなのはちょっとずつ始まっていて、チラシをばらまいたりしているが、</p>

	<p>それが「東京都の活動です」というより「東京都にいる人たちの活動です」みたいになっている。行政の人たちも課題には思っているが、研修に出てくる人たちは一回行くといろんな情報がもらえるからどんどんいい意見を出せるけれども、そういうのに全くアンテナを張らないような人が人の人生に関わっているというのが大きい。ご本人やご家族に対して目の前の相談支援専門員の意識というものが伝わらないまま「よろしくお願いします」と言わなきゃいけないご本人とご家族というのは結構大変だろうな、問題だろうなと思っている。</p>
岩本会長	<p>都や自治体レベルではなく、有志の集まり、任意の団体、必要に駆られてやっているという動きがあるということだが、その辺りが、きちんと必要なところに必要な情報が届くといいという話。本当に相談の中身がどうかということが重要で、その点も協議会の大事な課題だと思うので、これからも情報共有できればと思う。</p>
大津課長	<p>コーディネートをしていただく形で進めていただき、ありがとうございました。 第5期は、来年度は2年目に入り、第1回の本会議は6月4日となっている。 今回の実行委員体制につきましては、こちらのアナウンスが十分でなかったということ、メーリングリストだけでなくやはり直接会って、一度顔合わせをするというのが必要だというご意見は承らせていただいた。今後そういったことも踏まえ、より良い運営をさせていただきたい。 以上を以て、平成29年度東京都自立支援協議会第2回本会議を終了。</p>